東海道五十三駅鉢山圖繪 上

叙

盆に石を並べ勝景を見るを盆山と云ふ鉢に
石を据へ土を盛りて勝地の景色を作す
を鉢山といふ漢国にて盆景盤縮景登
といへり 於のし其呼名異同ありといへど
倶に千里の好景山海の風色を望して
一室の中にたる無窮の楽ミとして 亭々父あり

唐船寿けたる公深くまつ年毎に四方に
名だたる驛路の風景をはしらせて以てくはしく
其の好奇たらしくおもひおもひが畫工
あまた歌川芳室もやくしとも成り是が
写し絵にして櫻木にのこせしもやとなりて
以てまた元より老いの拙藝何を世に公に
せまと辞し玉ふが再三に及んで終に許さ

れて予に其由よし述べよとあるも
予智浅く文らしくして筆が採りた
いけるさ謂をかくて唐土の世の意
あらしとこられり五十三驛鉢山写絵
と題して二とせ三とせ前にも出しまし
見る人其魯鈍なる筆を以玉ふなと
父たかりて巻の始りけるとがかへ

久しく住しハ今浪花井池のほとりに住

安永改元
申冬し五月

蛙庵主人

友人春山顧称氏挿花会画に於て居を
まて世に弘る居業し名も同流の園芸
とく莫逆の交りは我らのとし久し
ある日一小冊をもて見にいたし出せよと
みるに厳く文なる居眼にいくろ清く
しは珠山会のふりけり一たひ見を

ゑがけハ呼して東より みちのく残東迄
嗚呼此京のかくてしまのりし歎ありて
けふのかりと感嘆して筆を紙上

蓬雲斎
田一鶴

川崎

神奈川

程ヶ谷
志なの坂

戸塚

藤澤

梅沢立場
大磯

平塚

山中ノ景

箱根

沼津

原
柏原右に富士見ゆ

吉原
富士川

由井

さつた峠

江尻

阿べ川うち渡り
府中

丸子

瀬戸川

藤枝

金谷

まきの原

さよの中山
日坂

掛川

みかの坂
袋井